

(続紙 1)

京都大学	博士（地球環境学）	氏名	Tran Thanh Duc
論文題目	Livelihoods and vulnerability of households in Tam Giang lagoon area, Central Vietnam		
(論文内容の要旨)			
本論文は、学位申請者が、ベトナム中部トアティエンフエ省にあるタムジャンラグーンの村落を対象地とする調査研究を行ない、地域住民の生業活動と貧困の状況、自然災害をめぐる脆弱性および対処行動について統合的に論じたものであり、全6章から構成されている。 第1章では、ベトナムにおける貧困問題の位置付けや取り組むべき課題、研究の目的および方法を説明した。1986年の経済開放政策から近年に至る経済成長のもとで、ベトナム北部の山岳地帯、中部および中南部が依然として貧困層を抱えていることから、貧困削減への具体的対応やそれを下支えする学術研究の必要性を指摘した。 第2章では、対象地域の気候・生態環境や社会経済状況を概説した。 第3章では、対象村落であるヴァンクアットドン村とティエンタイン村における生業活動と世帯収入源、居住環境および衛生環境の状況を明かにし、これらとベトナム政府が定める貧困指標（経済指標）との比較を行った。その結果、季節的洪水に比較的脆弱な家屋、トイレのない世帯、慢性疾患を持つ家族を抱える世帯が少なからず存在し、し尿やごみあるいは家畜小屋からの汚水による周辺の河川や水路の水質に悪影響を与えている実態が明らかになった。一連の議論から、貧困の程度を知るには、自然災害への備え、衛生、健康および栄養状態などを考慮する必要があることを示唆した。 第4章では、水害に対する脆弱性と世帯レベルでの対処行動の実態を明らかにした。1951年～2010年の間、166個の台風がベトナムを襲い、そのうちの67%がベトナム中部に集中していた。海岸平野やラグーンでは、台風や雨季の洪水が生業活動の妨げとなるほか、その程度によっては自然災害として生命や財産を脅かす実態が明らかになった。1983年、			

1999年、2007年および2009年の洪水が地域住民の間で大きな災害として記憶されていた。特に被害が甚大であった1999年の洪水を契機に、土台のかさ上げや2階建て家屋が建築されるなどの、世帯レベルでの対処行動が確認できた。一方で、経済発展の恩恵を受けない世帯では、依然として洪水への備えに乏しい家屋に居住していることも明らかになった。

第5章では、貧困削減に向けた世帯経済の向上や生業の多様化が洪水への脆弱性の低減につながるとの認識に関する比論を行なった。その具体的な提案の一つとして、対象村落の主生業である稲作によってもたらされる有り余る稲わらを利用したきのこ栽培の事例を紹介した。

第6章では、一連の研究結果をまとめた。

(論文審査の結果の要旨)

近年、ベトナムは急速な経済発展を遂げている。一方で、ベトナム中部、中南部および北部山岳地域では、貧困削減が、依然として地域開発支援における緊急の政策課題である。加えて、ベトナム中部は、台風や洪水が多くベトナムでも有数の自然災害常襲地として知られている。本論文は、このような背景のもと、ベトナム中部トアティエンフエ省にあるタムジャンラグーンの村落を対象地として、人々の暮らしや生業、貧困指標（経済指標）のみでは表現しきれない貧困の実態、自然災害への脆弱性の評価と世帯レベルでの対処行動を明らかにし、世帯経済の向上や生業の多様化を通じての貧困削減と災害対処の可能性とそのあり方を論じたものである。

本論文の地球環境学を含む学術的な意義は、以下の通りである。

1. 生業活動や貧困問題をめぐる包括的な地域理解の深化

ベトナムでは中央政府が定める貧困指標（経済指標）をもとに、貧困削減や地域開発支援のあり方が語られることが多い。本研究は、対象地域の生態環境や生業活動に関する知見に加えて、経済指標のみでは表現できない貧困の存在や実態を明らかにした。世帯や村落レベルでの生業活動や居住環境および災害への脆弱性と関連付けて貧困問題を捉える研究は、ベトナムにおいては希少であり、学術的にも高く評価できる。

2. 洪水に対する脆弱性の評価と世帯レベルでの対処行動の把握

対象地域を含むベトナム中部が台風や洪水などの自然災害常襲地であることを文献調査から明らかにし、丁寧なフィールド調査により人々の記憶にある自然災害や対処行動を特定したこと、また、それを踏まえての貧困の度合いと脆弱性の関連に関する議論は、農学研究や地域研究および開発学の分野に有用な知見を提供し、地域理解を深めることに大きく貢献する。

本論文の社会的な意義やインパクトは、以下の通りである。

1. 地域社会の貧困や脆弱性および自然災害に対する対処行動の捉え方の提示

貧困削減や地域防災力の向上は、ベトナム国の政策や諸外国による国際協力において喫緊の取り組み課題である。本論文が明らかにした標記の事柄は、現地政府による施策あるいは地域開発支援を行なう前提となるものであり、それ故に、事前調査のデザインや具体的な施策に反映されることを通じての社会的貢献は大きいといえる。

2. 貧困削減や洪水への脆弱性の低減に向けた具体策の提案

本論文は、副生業の立ち上げなどによる生業多様化が、貧困削減はもとより、自然災害への脆弱性の低減に寄与する可能性を、現地調査や実践的なトライアルを通じて明らかにした。このような取り組みは、地域住民の日常的な活動の範囲でも実施可能であり、ひな型となる具体策を提案することで地方行政機関や援助団体による支援事業のコンテンツともなりうる。

以上のように、丁寧なフィールド調査により練り上げられた本研究は、学術と応用実践の両面において陸域生態系管理論を含む地球環境学の発展に大きく貢献したと評価される。よって本論文は博士（地球環境学）の学位論文として価値あるものと認める。また、平成24年2月15日、論文内容とそれに関連した事項について試問を行った結果、合格と認めた。

論文内容の要旨及び審査の結果の要旨は、本学学術情報リポジトリに掲載し、公表とする。特許申請、雑誌掲載等の関係により、学位授与後即日公表することに支障がある場合は、以下に公表可能とする日付を記入すること。

要旨公開可能日： 年 月 日以降